

小田原

広

報

February
2・1

1999
No. 740

この道

北原白秋

この道はいつか来た道

ああ そうだよ

あかしやの花が咲いてる

この道はいつか来た道

ああ そうだよ

お母さまと馬車で行ったよ



特集 こころの道 おだわら

特集

こころの道 おだわら

曾我物語圖會

相州大蔵長寺の娘
御とろは街道一の
美女あるが十郎祐成

市御前

2千年前から人が集い、歴史的にも要衝として栄えた城下町小田原。かつて遠くと廊が小田原を舞台に人々の情報などがさまざまな形で交流し、人々を感動させるようなドラマを生んできた。

現在でも小田原は、国道1号線、西湘バイパス、小田原厚木道路、東海道新幹線、JR東海道線、小田急線、箱根登山線など東京・山梨・静岡を結ぶ「道」の結節点として重要拠点に位置づけられている。

「道」をテーマに、「まち」「ひと」「こころ」など小田原の魅力を考えてみよう。

思偶露の應へん

柳下其雅貞筆記

歌川重忠



歌川重忠 曾我物語図会 大判錦絵30枚組

曾我十郎には、大蔵の長者の娘で街道一の美女といわれた遊女虎御前という恋人がいた。父のあだ討ちを目前に控えたとき、中村通（現小田原大本松峠）で悲しい悲しい涙の別れを迎える。

特別寄稿

白い道

新井恵美子



母と二人の妹とともに（右から2番目が筆者）

6歳の時、東京から小田原市前川の父の実家に着いた私は土ほこりを上げて、白っぽい国道1号線に初めて出会った。「海がきれいだろう」「花がいっぱい咲くんだよ」と父は私の気を引こうとした。何と自分のふるさとを好きになってもらいたかったのだ。

祖父は農業をしながら馬力引きをして収入を得る働き者であった。国府津駅に到着する荷物を配達するのが祖父の仕事であった。今の宅配便屋のような仕事だった。明治20年に国府津駅が開設されると、駅前には20数軒の旅館や茶店、4軒の運送屋が立ち並んだそうだった。私の祖父はその中の1軒、丸通運送に所属する配達屋だった。当時、馬や荷馬車を自前で所有して営業できた祖父は時代の先端を行っているという自負を持っていた。

白いはこりを舞い上げて、祖父の荷馬車は国道を行ったり来たりした。祖父は偉そうな顔をして誇りに満ちた態度で馬の手綱を握っていた。「この道はオレの道だ。みんなどけどけ」と言っているような顔だった。

私はその白っぽい道を偉そうな祖父も馬もみんな嫌いだ。らっきょうの匂いがしみていた祖父の家も腰の曲がった祖母も耳元に迫って来る波の音も好きになれなかった。そ

れまで暮らしていた東京が懐かしかった。夕方になると必ず叔父がピアノを弾いた。奥く分らないけれど美しい音だった。上品な母方の祖母とともに紅茶とビスケットで午後のおどろきを楽しんだあの暮らしが恋しかった。すでに戦況は悪化して、東京は不安な暮らしになろうというのだが、子どもは私にはそういうことが理解できなかった。

こちらが頑なに前川の日々を拒否するのだから、祖父母にはまったく可愛げのない孫であったのだろう。向こうも私を愛そうとはしなかった。父だけが「前川もいいぞ。見てみろよ。箱根山に夕日が落ちるんだよ。いまにみかんもなるんだよ」などと言った。

しかし、戦争はますます激しくなつて、頼みの父も応召されてしまった。都会育ちの母と私は、いよいよ身を縮めてこの土地で暮らし始めた。もしもあの火事事件がなかったら、母と私はいつまでもこの土地に馴染もうとはしなかったに違いない。

終戦の年の春のことだった。当時の前川村の八割方を焼き尽くす大火事が起きた。戦争中だったが空襲による火事ではなく出火だった。消火能力の全くなかった戦争中のことで、火事は燃え尽きまもなく止せなかったのだ。私は大きな火のかた





まりが西の方から迫るのが恐ろしくて寺の裏山に逃げた。火は太いヘビのように東に向かって這っていった。前川村は山と海に挟まれた長細い地形をしていた。そこを国道と東海道線の線路が縦に通り抜けていた。民家は国道を挟んで両側に1列か2列ずつならんでいる。火事はその民家を1軒ずつ律儀に燃やしながら進んでいった。私にとっては馴染みの薄い所だけれど、次々に家が焼かれていく様は衝撃的だった。

祖父はその火の中から馬を救い出そうとしていた。火に怯える馬に目隠しをして安全な場所に連れ出すのに苦労していた。荷馬車も引き出すことができた。祖父にとってそれらは命よりも大切なものだった。大火の後はつべらぼうの焼け跡が広がっていた。国道はかりがやたらと目立っていた。らっきょうの匂いがしみていた。古い祖父の家を私はなんにでも見ていたが、何もかもが無くなってしまった。その日から常念寺の一間を借りて暮らすようになった。そこになる。国道を伝って東京からの被災者が西に向かつて行く姿が良く見られるようになった。汽車は当てにならないし、切符の入札も大変だった。荷車に家財道具を積んだ人々が連日、村を通り抜けて行った。東京がどんなにひどい状況かを私たちは居ながらにして知るこころが育った。母が変わったのはこのころからだ。祖父と一緒に野良に出たり、浜に上がる魚を運ぶアルバイトをしたり、買い出しに行ったり、母は大変な働きぶりを見せた。母はむしろ楽しんでそれらの仕事をこなした。苦労知らずに育った母は母のエンビツを削る役目の女中さんがいたほどのお嬢さんだった。そのうだが、それだけに働く喜びやお金を稼ぐ醍醐味も知らずに大人になってしまった。母はおもひながらにハラクくる気になっていた。

相変わらず白いはいこりばい道がまるで村の血管のように東西を突き抜けていた。祖父はめつきり少なくなった配達の仕事や引越しの手伝いなどをして稼働を続けていた。相模湾のかたから連日救護が、編隊を組んで、爆音を立ててやってくる。銀色の翼を光らせて編隊機は一直線に北上する。富士山の上で方向転換して東に進む。それが日課のように繰り返されたので、私たちはすっかり慣れっこになって空を見上げては「きれいなもんだね」とながめたりもした。頭上の機がたわむれに一発の爆弾を落とせば私たちの命などひたまりもないのに、のんきなもんだ。戦争は私たちの命に対する感覚を異常なものにしてしまっていたのかも知れない。いつもいつも、頭の上で低い規模音をうならせていた爆音がある日バタツと止まった。戦争が終わったのだ。森閑とした静寂の中に国道だけが一筋走っていた。その白い道が古領軍のジープでいっぱいになるのはそれからまもなくのことだった。米兵の車。それはこの立つ道は不都合だったのだ。占領軍は何よりも先に道路の舗装に手をつけた。馬車引きにとつて馬の根を止められる時が来た。祖父の仲間たちはいらはやく先を見越して車の運転を身につけた。馬と馬車を走らせて車を買つて、新しい時代に対応しようとした。

しかし私の祖父は馬と一緒に働く生活が捨てられなかった。「車なんかなんじやない」と祖父は駄々子子のよにすねた。時代の流れに取り残された祖父は手のつけられない非行老人になっていった。そんな祖父がついに馬と馬車を手放す日が来た。最後の仕事は厩卒としての配達だった。何を思ったのか祖父は私に馬車に連れていってほしい。祖父には愛されていなかった。祖父の足跡をたどる私は理解できないのだった。「乗れ」と祖父はぶつきらぼうに言った。母は「乗せてもらいなさい」というように私をうながした。初めて私は祖父の馬車に乗った。ゆっくりゆくり馬車は進んだ。歩いていける人と同じ速さで馬車は進む。その日の荷物はほんの少しだった。それが祖父の最後の仕事であるというのに、飾る花もなくけざらいい言葉もない。情熱も熱帯が馬車のすみでらだこまっていた。ゆくりゆくりと海辺の道を馬車は進んで行った。絶え間なく車が行き交う道を遠慮つぽく馬車は進んだ。海を見渡す高台に馬を休ませ、祖父と私は弁当を食べた。祖父は近くで休んでいた若い男に自分の弁当を分けて食べた。その日の小さな旅は何事もなかった。白い土ほこり道の道も祖父の馬車も消えて無くなった。しまった。しかし私の胸の奥には消えることのない白い道の風景が残されている。



昭和初年 国府津臨海路を走る自動車。現在はこの付近に西海バイパスが走り交通量に悩むの感がある

新井恵美子

作家。平成5～10年小田原市教育委員を務める。独立小田原城内高校卒、大学に進み、児童文学に挑戦後、ノンフィクションを志す。随筆サンケイ賞は多次受賞。現在は『戦争と歌の記憶』を東京新聞（土曜夕刊）に連載中。





山田彰夫さん（63歳）

三味線の音が響き芸者衆が行き交う 粹で艶っぱい町だった戦前の宮小路

「戦前の宮小路は、そりや粋な町でしたよ。チントンシャン、……と三味線の音で目が覚めるような艶っぽさだったのけ」

そう語るのは宮小路の「山田呉服店」に、おおよそ50年ものあいだ勤め続けてきた柳田マサエさん。社長の山田彰夫さんも、かつてこの町の面影をこう振り返る。

「僕は終戦のとき10歳だったから、戦前の宮小路はあまりよく覚えていないけど、確かに華やかな歓楽街だったね。置屋があつて芸者がいて……。昔の芸者は本当に芸があつて、三味線や長唄、小唄、たん（謡）歌など何でも遊びを教えることができた。それを昼間から稽古していたんだね」

小田原に鉄道が引かれてからは、交通の便のせいで衰退することとなる宮小路だが、戦前から昭和30年代初めにかけては朽れもない小田原の中心地。東海道と甲州街道（小田原から関本を通過）甲府までつながっていたのが交差する一等地とにぎわったのである。

9歳のときに宮小路に移り住んで、「山田呉服店」の隣にあった半信屋に奉公したという柳田さんは、11歳の松原神社のお祭りの当時のようすをよく記憶している。（写真左上）

夜ごと芸者を上げてにぎやかに遊んだ小田原商人や漁師たち

宮小路の芸者衆が一番美しく、通りに日本情緒が満ちあふれるのが、お正月。雪がちらちらと降る中、日本髪を結って素足に紅白の下駄をはき、小意気に江戸振りの前を少し持った芸者が歩き、いなせな出で立ちの影が年輪に急ぐ。

「昔の芸者さんは本当にきれいだっただもお座敷で人気のある人は、きれいなより座敷を盛り上げる愛嬌のある人だったのけ」

「あのころはまだ『遊ぶのは男の甲斐性』と言う時代だったね」

そんな女房たちに送られて宮小路にきわめていたのは、まず箱館を商人たち。当時の小田原の商人は独立商家であつたものの、熱海や伊豆、三島は言うに及ばず、大島、伊豆諸島あたりにまで商品を供給して、うなほほどの富を得ていた。そのうえこのころは、小田原の漁場はブリを大変な木揚げ高を誇り、最先端の漁港と呼ばれていた。宮小路には格の悪い一流侍が軒を連ね、毎夜、旦那衆や漁師たちが芸者を上げて、派手に遊んだという。

「1月から4月のブリの最盛期なんて、いちばん下っ端の漁師でもシーズンで30坪くらいの地所を買って二階屋を建てられるほどの稼ぎがあつたらね。特に酒を飲まない人なら宮小路で遊ばないから、よけい金があつた。とにかく宮小路の裏に漁師が大勢家を建てて、毎晩ドンチャン騒ぎしてたねえ」

と山田社長、柳田さんもこう答える。「そうそう、夜になると風呂屋から漁師の親父がいの声で浪曲をうなるのが聴こえてね。しつとりと、よく響いて情緒があつたのよ」

華やかな置屋やわんぱくたちの遊び場にも次第に戦争の影が……

当時、ブリやイカなどの海産物を載せた馬車や、かまぼこを積んだ荷車やリヤカーなども頻繁に宮小路を行き交つた。美しい芸者をひと目見ようと、喜んで手伝いを買つて出た若い衆が走り回る光景は、この町の風物詩だったという。一方、宮小路の子どもたちにとつても格好の遊び場であつた。

「男の子はかりうと6人でお風呂屋のそばの塀に座って、若い芸者が昼間から風呂に入るのをのぞいたりもしたなあ（笑）」

山田社長が、わんぱく時代を思い返して笑う。だが、そんな古きよき時代を謳歌していた宮小路に暗い影が差し



「昔はこのドブ板の上を歩いたのよ」今でこそ広くなったが、当時は木のフタ1枚の粗い路地だった「ドブ板通り」を通過して、柳田さんは学校へ通った。「当時は神主さんによく叱られたなあ」山田社長は松原神社の社の屋根をすべり台にして遊んだという。



宮田マサエさん (75歳)

夢を運んだ映画館「富貴座」も
チンチン電車も今は姿を消して
この町にも大きな傷跡を残した戦争
が終わったあと、宮小路は復興に向け
て立ち上がる。そのシンボルともされ
たのが、かつてこの町にあった「富貴
座」という映画館であった。テレビも

始める。押し寄せてきた第二次世界大
戦の戦火であった。建物の強制疎開が
始まって、赤い灯籠型の電灯はなくな
り、柳に彩られていた細いトナリ板通り
も広げられた。金火鉢などの金目の物
の供出によって、「山田呉服店」自慢
の銅の看板がトタンに変わったのもこ
のころのことである。
「重みがあってすてきだった銅の看板
がトタンになって、軽々しくなっちゃ
ってね。極の部分が使ってたはず
かな銅板のほうはトタン全体より高か
ったんですよ」と
と柳田さんが、ありし日の立派な銅看
板を懐かしむ。

さらに戦火は激しさを増し、遂に昭
和20年8月14日、実に終戦前夜に小
田原は空襲を受けることとなる。
山田社長はこう回想する。

「宮小路も半分まで焼けて、やっと火
が止まった。昔者をはじめとしてど
んな人もいたが、火葬場もなく焼
けはくいで野焼きしなければならな
かったんだよ」

なかった時代、傷ついた人々を夢を運
んだ映画館を中心に、宮小路はにぎや
かを取り戻す。小さな子が、パパ電
車と叫んだチンチン電車も走り出し
た。
「富貴座」では「愛楽かつり」と「山
椒太夫」を見たのを覚えていたわねえ」と
と柳田さんが言えは、年下の山田社長
は笑っている。



「僕は『名犬ラッシー』だけとね(笑)。
そういえば風呂屋だけでなく、「富貴
座」の映画もすぐ壁のすきまからのぞ
いて見てたなあ」
映画がかかるのみならず、ときには
役者が来館して歌うこともあったとい
う「富貴座」のそばには、かつて北原
白秋らが訪れた宿も建っていた。こ
ろが、この「富貴座」が昭和30年代に
火事で焼失。現在のバーやスナックに
建て替わってしまった。
「最近では若者向けの店ができたりし
て…。また新しい灯がともり、宮小路
に活気が戻ってきたら嬉しいね」



「初めて小田原、それもこの宮小路へ来たときは「すて
きだなあ」と思いましたよ。特に1日、15日、28日の
明神市は、それはにぎやか。ゾウやライオンを連れて
曲馬団や女相撲が来て、芝居がかかって、店がいっぱ
い出てね。芸者さんが手古着をして……。あのころの
宮小路には本当にいい芸者さんがいましたよ」
「有名俳優も、いい芸者めあてに遊びに来ていたもんだ
ね」





武田健さん (50歳)

汚なくて煙かったけど、生活の匂いと人情、活気があふれていた仲見世通り

た「正直屋」は、合わせておよそ7坪。店先に置いた黒い樽にうなぎをあふれんばかりに泳ぐ1軒でうなぎをさばき、もう1軒で焼いて売る。夏場などはアルバイトも入れて10人以上の店員が働く繁盛ぶりであった。

現在「EPO」ビルが建っている場所には、平成2年まで、仲見世通りと呼ばれた商店街があった。入り口には金魚や電気店、洋品店。そして肩がふれ合うような細い通りには精肉や鮮魚、パンに牛乳、乾物と、さまざまな店がひしめき合い、ここに行けば生活に必要な物は何でもそろうと言われていた。買い物婦りの主婦が牛乳でのを調子、郷愁漂うゲームコーナーでは子供たちがクレインのラムネつかみやピンボール、10円を入れると怪しげな、月の石とやらが見えるマシンに興じていた時代もあった。

途中でいったん道が二つに分かれ、また合流する仲見世通りに、当時軒を並べた24軒のうちの1軒、うなぎの「正直屋」は、今も「EPO」の地下2階で商いを続けている。

「戦後、先代が横浜のバラックで創業した「正直屋」は、もともとフグ専門店。フグが靶になる夏を狙って、小田原でうなぎの店を出すことになり、選んだ場所が見世通り。昭和41年から平成2年まで、ここで営業していました」

と二代目の女社長、白井由美子さん。武田健さんも白井さんとも、ずっと仲見世通りで働いてきた。当時、通りをはさんで2店舗が向き合っていた



「仲見世通りは確かに汚なかったんですが、それがまた入りやすくてよかったんですよね。[あのころはサンダルとエプロンで来られたのに、今の店はきれいだから、着替えないと来られなくて……]って言うお客さんが多いんですよ」

「すべてがとても生活に密着していた商店街でしたよね。アーケードのような屋根があったせいで煙かったけれど、独特な匂いがありましたよ。天ぷらや肉やうなぎ……それに活気と人情が加わって、生活の匂い満ちていました」



現在の正直屋





白井由美子さん (50歳)

毎月10日の稲荷緑日の楽しみは米や砂糖、醤油が当たる福引き

「小さな店がきつりあって、特に夕方には近気がありました。通りがかりの人も、買い物客も、売るほうも、とにかく店頭に満ちていました。八百屋や魚屋などから威勢のいい声が飛んでいて……」

武田さんは仲見世通りをそう語り始めた。客は夕飯の買い物にせしむ主婦のほか、年配者も目立ち、常連客も多かったという。そうした人々がともに楽しみにしていたのが、毎月10日の稲荷緑日。この日はお稲荷様に供物を捧げ、福引きなどの行事が行われた。

「百圓引と福引き券が1枚も入らな5枚で、四圓引きができるんです。そのころ、確か1等が3千円から5千円。毎年5月の大稲引き市では、お米10kgとか砂糖、醤油などが当たったんです。今の福引きよりもっと身近な景品ですよ」

と白井さん。母親に連れられた子供たちが、通り抜けもできる路地でかくれんぼをして遊んだり、大喜びで10kg入りの米袋を抱えて帰ったりするほは笑ましい光景が、そこにはあった。2つあったお稲荷様の鳥居のうち、ひとつが「正直屋」の隣にあったため、お店の人が掃除やお賽銭の管理をし、毎月10日には「今月もよろしくお願

します」と祈願した。とはいえ、信心深かったのは「正直屋」の人々ばかりではない。毎月10日には商店街の人がお供えをし、買い物に通りかかるとちもみな決まってお稲荷様の手を合わせて。

汚くて煙たかったが、アーケードに会話が響く道

このように人情味あふれる通りでは、売り手と客の会話が温かく弾まないわけがない。今も当時の「安いよ、いっけなや」というかけ声や、お店の人との世間話を懐かしむ客は多いという。白井さんと武田さんも、当時の客とのふれ合いが忘れられない。「ある大雨の日の日、男のお客さんがうなぎを買いに来てくれたんです。『この雨の中をよ……』とお礼を言ったら、『このうなぎが食べたかったら』と言ってくれて、本当にうれしかったですね」

15年ほど前に防災などの面から立ち退きが決まると、寂しいご時世の不安を抱えて、ほとんどの人が店を閉めた。平成5年にオープンした「EPO」で今も営業を続けているのは「正直屋」のほか、そば、乾物、お茶、薬、子供服などの店のみ。仲見世通り時代から変わらずうなぎを買いに来られる古い常連客に感謝する一方で、白井さんははにかかっているお客さんがある。

「仲見世通りの店に、いつも買いに来てくれていた隣客のあるお客さんがいたんです。『一枚だけなんだ……』って言うから、『一枚でもうれしいです』って答えたりしてね。でも、今の場所ではわからないのか米ににくい

か、お見えにならない。それだけが、ちよつと気がかりですね」

仲見世通りとうなぎを愛した先代の遺した句に脈打つ通りへの思い、

仲見世通りを愛し、うなぎと俳句を愛し続けた「正直屋」の先代は、昨年81歳で亡くなった。「人間は正直に」をモットーとし、それを店名にも込めた白井さんの父である。仲見世通りの店でも丑の日の句を詠み、それを店につるしていた先代は、膨大な量の俳句を遺した。その中には仲見世通りやその仲間、それとうなぎを詠んだものも数多い。そのひとつが「お客さまは神ふくうなぎ、心し」。また、「正一位お稲荷様の御隣り、吾が社裏より丑の日最高」という歌も。白井さんは亡き父と仲見世通りの店に想いをこめて、こう語る。

「この句を見るといつも、父に『一生懸命やらないと、いけないよ』といましめられているような気持ちになるんです。この句のとおりによっているかな」

「昔はここにあったんだっけ……」



か、お見えにならない。それだけが、ちよつと気がかりですね」

仲見世通りとうなぎを愛した先代の遺した句に脈打つ通りへの思い、

仲見世通りを愛し、うなぎと俳句を愛し続けた「正直屋」の先代は、昨年81歳で亡くなった。「人間は正直に」をモットーとし、それを店名にも込めた白井さんの父である。仲見世通りの店でも丑の日の句を詠み、それを店につるしていた先代は、膨大な量の俳句を遺した。その中には仲見世通りやその仲間、それとうなぎを詠んだものも数多い。そのひとつが「お客さまは神ふくうなぎ、心し」。また、「正一位お稲荷様の御隣り、吾が社裏より丑の日最高」という歌も。白井さんは亡き父と仲見世通りの店に想いをこめて、こう語る。

「この句を見るといつも、父に『一生懸命やらないと、いけないよ』といましめられているような気持ちになるんです。この句のとおりによっているかな」

いと、つて。そうしていれば、父とお稲荷様が守ってくれたと信じているんです。あの仲見世通りで隣にいたくださったお稲荷様に、私たちの店は確かに守られていたと思いますから」

現在、そのお稲荷様は「EPO」の屋上に安置されている。白井さんたちは、今も、ときどきお稲荷様に詣で、掃除をしているという。懐かしい仲見世通りとそこで暮らした人々を思い、白井さんと武田さんをはじめ商いの打ち込む人々を守りながら、お稲荷様は今も変わらず小田原の「道」を見つめ続けている。



文人たちも愛した小田原の道

播摩晃一（小田原文芸愛好会代表）

小峯梅林の面影

小田原城天守閣の西側、小田原競輪場・相洋高校・小峰配水池などのある標高30mから80mへかけての八幡山一帯は、明治・大正のころ、小峯梅林として有名だった。

馬場は目の下に、恰も谷の底のやう。松の丘にかけ、城の山にかけ、段々に円く二三重に梅の林、一面の日向、枯草の上に影も落ちず。風あつて枝を渡らば、此処まで薫を誘つて来よう。

泉鏡花が明治36年（1903）に書いた「千歳之孫」という小説の中の、小峯梅林の描写だ。かれは、2年前の大晦日、小田原を散策した。荒涼とした小田原城跡を見てから小峯梅林へと足を向け、大久保神社の寿千年之孫を覗き、遊覧とした相模湾を眺望したに違いない。

梅の咲くころ小峯梅林を訪れた文人たちは、実に多かった。今は、二宮神社前のたたら坂の右手に少しの梅林が見られるだけで、昔日の小峯梅林の面影はない。

それでも、明治30年（1897）小田原生まれの詩人井上康文は、小峯梅

林への道を懐かしがって、戦後、東京から毎年のように訪れた。小峰配水池の上には、

梅は古き枝に
帯をつけず
新しき春き梢に
花をひらく

という井上康文詩碑が建っている。

曾我村の梅

梅といへば、今日では曾我の里が知られたっている。2月、曾我梅林では3万本の梅が咲き揃い、春の到来を告げる。

今の世の曾我村はたゞ梅白し

と詠じたのは、昭和12年（1937）2月にここを訪れた高浜虚子だった。その日の吟行に参加したボトトギス一門26人は、「その梅園と言はず、この里の一带の梅の見事なのに一瞥を喚びた」。

幼少時から下曾我の地で育ち、戦後ずっとこの地に住みついて、小説を書き続けた尾崎一雄には、この梅の里は自分の庭だった。

西海子小路周辺

小田原文学館・白秋童謡館のある西海子小路周辺には、明治・大正期の文人たちが何人か住んでいた。

明治後期には、明治文壇小田原組と称される村井猛斎・斎藤鉄雨・小杉天外ら3人がこの通りに面して隣り近所だった。大正中期には、北原白秋も谷崎潤一郎も居を構えて、かれらの知人・友人たちも賑々しく往來した。

小田原藩の武家屋敷が並んでいたこの通りは、閑静だったが、鬱蒼とした感じだった。しかし、このようなたたずまいが、かえって文人たちに好まれたのかもしれない。

大正8年（1919）の暮れ、東京から西海子小路へ移り住んできた谷崎



西海子小路。武家屋敷が並んだ閑静なたたずまいが文人たちに好まれた

潤一郎の家には、親友の佐藤春夫がしばしば訪ねてきたが、ここで谷崎の妻との問題でいわゆる「小田原事件」を起し、谷崎と佐藤とは絶交状態になってしまった。

あはれ、人に捨てられんとする人妻と、妻にそむかれたる男と食卓にむかへば、
妻と父を持ちし女の児は
小きき聲をあやつりなやみつ
父ならぬ男にへんあゝの福をくれむ
と言ふにあらずや。

人口に膾炙した佐藤の「秋刀魚の歌」も、この事件から生まれた。



水之尾への山道

大正年（1918）春から西海子小路南側のお花畑に住んだ北原白秋は、この年の秋、天神山の伝馬寺へ移

今回の表紙
小田原ゆかりの北原白秋と小暮次郎の登壇です。
東海道の本通り（大手口前通り・唐人町）に、京都市電に続く日本で4番目の路面電車。

（注）人口に膾炙
人々に広く知られた
ること





相模湾を一望するすばらしい眺望。文人の心も洗われ、数々の作品を生んだといわれる

り、ここに山荘を建て、8年間旺盛な創作活動を続けた。
この山荘から水之尾、伊張山へと通じる山道は、
山ゆけば照りつつ涼し青草、露の
淡き胞子も夏ならむとす
とみずから歌っているように、かれの
散策の道であり、詩想を練る道でもあ
った。



水之尾への山道。北原白秋の散策の道であった

特筆すべきは、「赤い鳥小鳥」「から
たちの花」「揺籃のうた」など、日本の
津々浦々に知れわたったかれの童謡
の大半が、小田原時代の所産だとい
うことである。

海辺の道

小田原生まれの川崎長太郎は、生涯
小田原を舞台とした私小説を書き続け
た。かれは歩くことを日課であり仕事
であると位置づけ、なんと50年近く、
小田原の街の隅々まで歩き回った。
かれは、比較的心と目のない快適な
コースとして、ざっとだが、「A」城
址のほとり、「小峰配水池」「水之尾」「森
窪」「小田原駅」「B」根府川「江之浦
の蜜柑山」「真鶴新道」「米神」「石橋」「早
川」「C」酒匂川の土手「飯泉」「穴部
」「飯田岡」「相山」を通るコースを推奨し
ている。

この「B」コースは海辺の道とい

つてよく、相模湾に面した小田原でし
か味わえないものだろう。早川親吉に
ある川崎の文豪碑に、
春きたる
海辺のみち
鳥のまね

という句が刻まれているが、これは
「B」コースで、遠春の感懐だろう。
小田原生まれの詩人福田正夫も、大
正初期の5年間、小田原の街ながら
石橋の分教場まで、毎日のように、海
辺の風景を満喫しながらこの道を自転
車で通った。

福田の菩提寺である早川久翁寺境内
に、
みづの浅黄に早川のながれそへぐ
や
朝の浅黄日あかるき沖の果て
小き汽船一つゆく渚の砂の
蟹穴もおもひてふしか波しづか
と刻んだ、かれの詩碑がある。

酒匂川沿いに足柄平野を

川崎長太郎推薦の「C」のコースは、
酒匂川沿いに足柄平野を横断するもの
だ。

酒匂川の河口から飯泉観音へとたど
るコースは、左手かなたに、「一子山」、
駒ヶ岳、神山、明星ヶ岳、明神ヶ岳と
箱根連山が遠望され、小田原では一番
雄大な風景を味わえる。

大正期に、北原白秋を慕って小田原
へやってきた大木樗夫は、酒匂川のほ
とりをよく散策したといふ。



酒匂川河口の雄大な風景は多くの文人たちを魅了した



種発見一

小田原文芸愛好会代表。幼少から小田原
で育つ。創立小田原中学校から大学に進
み、30年間小田原周辺の小学校の教諭を
務めた。

特集
こころの道



の くり



21世紀のまちづくりに重要な情報の道。
世界の動きを視野に入れて全国の情報通信行政を展開する郵政行政と、“交流”をキーワードとした小田原のまちづくりとの接点を探りながら、“情報の道”について語っていただきました。

戸澤弘男さん

郵政省大臣官房人事部長。昭和21年箱根町に生まれ、高校生活を小田原市内の高校で過ごす。東京大学を卒業後、昭和44年郵政省入省。大臣官房参事官、審議官、東海郵政局長、東京郵政局長などを経て、平成10年から現職。現在は、妻、一男一女とともに、千葉県市川市在住。



戸澤 私の出身は箱根ですが、小田原駅前に母の実家があったので、子供のころから都会といえ小田原、という認識がありました。その後は小田原の高校に進みましたので、小田原には思い出がたくさんあるんです。放課後、裏の石段坂から町を見下ろしながら帰って来たことを思い出します。平和ないい時代でしたね。

市長 今、外から小田原を一覧になって、どんな印象ですか？

戸澤 小田原に限らず、神奈川県西部から静岡中部以来は気候も温暖で食べ物おいし。その典型が小田原ですね。ただ大変穏やかで恵まれているだけに、ガムシヤラにがんばらなくてもいいのことはなんとかなる。そのせいで、ややもすると現状維持、保守的になつてしまふ部分もあるかもしれません。私自身の性格にもそういうところがあるんです。

市長 おっしゃるとおり、それが小田原の現状なんです。高度経済成長期にのんびりしていて、新しい施設やシステムを導入した他の市町村に半歩遅れてしまった。一方で悪い面での影響は排除できている部分もあるでしょう。出遅れた部分を利点として、小田原ならではのよさを磨いていかなければと思つています。

戸澤 確かに高度経済成長期にがんばりすぎた地方は今ダメージを抱えています。しかし、これからは市長が熱心でいらつしやる情報化を、21世紀に向けてぜひ取り組んでいくべきですね。

市長 小田原市は郵政省のテレビピア構想、郵トピアモデル都市に指定され、ケーブルテレビもさかんに圏を広げて行政情報も急速に発信できるようになりました。また昨年からは観光元年をスタートさせましたが、郵便局にも多方面でまちづくりにご協力いただいています。

戸澤 ケーブルテレビはテレビピアの中でも中心的なもので、ネットワーク通信網でテレ

ビ画面のほかに、さまざまな各種情報を双方向で流すことができます。たとえば公共機関の利用申し込みを受け付けたり多目的に使ったりすることが可能です。

小田原が“世界の中心” 目に見えない情報の道を

市長 小田原は、全国656市の中で市民参加度第10位に評価された実績もあるのですが、まちづくりの一つとして市民参加都市を目指しています。市民に行政の中身をよく知つてもらい、信頼関係を構築するためには、双方向の情報のやりとりが大切。インターネットでも県内で最も早い時期にホームページを作ったのですが、平均月20~30万件的アクセスがあるんです。観光情報も中身の濃いものができていると思います。

戸澤 おっしゃるように、情報化を進めるためには情報を一方的に流すだけでなく、受け取ったほうも発信することが必要ですね。それが技術的にも可能になってきています。

市長 小田原市の新しい総合計画「ビジョン21」の基本的には「小田原が世界の中心だ」という考えがあるんです。世界的な情報化の中で目に見えない道が小田原を通る必要があるという考えですね。

戸澤 目に見えない道、つまり情報の道というですね。

市長 二度と乗り遅れることがないよう、情報の道に小田原が何らかの形で関与する必要があると思つています。

戸澤 社会の流れが一品様大量生産から多品種少量生産に変わっているでしよう。こうしたことを実現するには情報化に負うところが大きいですね。これからはそのウェイトがもっと高まってくる。小田原は昔から交通の要衝。これからは、目に見えない道だけでなく情報の太いネットワークづくりが大切ですね。

市長 新しい総合計画の中にはレインボーブ

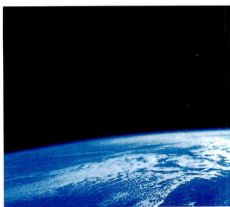




小田原市長 小澤良明

ロジックというものもあります。7つの重点プロジェクトのうち、主体的なものの一つが西部丘陵一帯で展開されます。東西自由連絡通路で結ばれる小田原駅を神奈川の西のゲート、そして静岡、山梨などとの交流ゲートにしようと考えているんです。その基盤的思想としてテレワークシステムのようなのも考えられます。

意味では、小田原は地理的条件になつていませんね。
市長 そうなんです。東京にも近いという交通の至便性で、たぐいまれな自然環境や歴史文化の蓄積をセッティングすれば、小田原の素晴らしい地域の個性を発揮できると思うんです。
戸澤 今や携帯電話をはじめとして情報化は仕事や生活のベースになっています。当然のごとく取り込んでいかないと乗り遅れてしましますが、小田原の場合、町のよさを残しながら、それを情報化とうまく調和させること



情報道づ

市長対談

市民生活に情報化が定着する

ができる条件をもっています。

市長 市民生活の中で情報化が当たり前のものとして定着していくことも必要です。たとえば、コンサートチケットの予約をしたり、ハンディキャップを持つている人が必要な介助をすぐ受けられたいということ。情報通信をうまく活用するとグローバル化や少子化、高齢化という現代社会の課題にも役立つはずなんです。

戸澤 グローバル化について情報通信の果たす役割は大きいですね。情報通信が発達しないとグローバル化は望めないし、グローバル化すれば情報通信を活用せざるを得ない。

市長 高齢化社会問題も、独居老人がボタンを押せば通信でSOSが救急介護センターへつながる、などの対応が可能になるはずで、戸澤 郵便局は、手紙やはがきを扱う伝統的な情報の拠点ですが、郵便小包は物流、郵便貯金のお金の流れを担っています。将来は、これらの機能を組み合わせることも、地域の情報の拠点としての機能をもっと充実させるべきだと思います。市役所との関係でいえば、郵便局の窓口で住民登録や転入届、免許の更新など、行政サービスの手続きがでたら便利でしょう。

市長 それはとても便利ですね。
戸澤 そういう意味で、情報化のために郵便局をうまく活用していただく方法があると思います。小田原市では郵便局の外務員が道路に関する情報提供で行政に協力しているんですね。

市長 そうです。配達を担当する外務員の方が、たとえばあの道に穴があいていて危ない、などと気づいて知らせてくれたら、市のほうですぐに直す、といった協力ができています。戸澤 そんなふうに地域住民と行政、郵便局



が一体となって取り組んでいけば、もっと便利で有意義な情報化が進んでいくと思います。市長 今日はどうもありがとうございました。

※注1 テレピア構想「ケーブルテレビなどを利用した、郵政省が進める地域振興策」

※注2 部トピアモデル都市：市町村と郵便局が連携し、各種サービスを集中的・先行的に提供するモデル都市

※注3 テレワークシステム：パソコンを遠隔回線で会社のシステムと接続して行う在宅勤務



21世紀へ続く、私たちの希望の道

ストリートと呼べる道から、田んぼのあぜ道まで、みんなが大切にしている道はひとつではありません。道に対する思いは十人十色。これからは人にやさしく、個性のある道が求められていく時代。今、私たちの未来へ続く道づくりが始まります。

「命の道」復活へ 東海道ルネッサンス事業 (21世紀への道 そのⅠ)

小田原は、徳川家康が1601年に宿駅・伝馬制度を定めて以来、江戸と京を結ぶ東海道（現在の国道1号）の宿場町として栄えました。「天下の驛」と言われた「箱根越え」の旅人を癒し、また食糧や生活物資など、人と物を運ぶ文化を運ぶ命の道としての重要な役割を果たしました。

そこで、宿駅・伝馬制度制定400年を迎える西暦2001年を期に、この命の道を「東海道ルネッサンス」構想として整備することになりました。東海道の歴史と文化を生かした、まちづくり・まちづくりを目指して、現在、小田原城周辺の国道1号の電線類を地中化し、歩車道のリニューアル工事を進めています。

沿道の皆さんも城下町・宿場町にふさわしい街づくりを進めようという立ち上がりがありました。「国道1号目録的景観形成協賛」を作り、建物のデザインや色彩などがこれらのイメージに調和するよう景観基準を定めました。



東海道ルネッサンス事業が進む国道1号

「生活を広げる道」の整備 都市計画道路 (21世紀への道 そのⅡ)

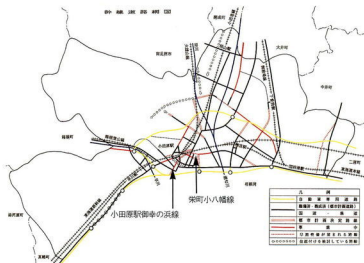
私たちの生活を広げる道路の役割

多少の時間はかかるかもしれませんが、小田原らしさが感じられ、心に残る。命の道が、きつと姿を現します。

は、車社会の発展から、その必要性がますます増えています。昭和17年に初めて道路を都市計画してから、都市の骨格となる都市計画道路は何度も路線の追加や変更が行われ、昭和62年になつて将来の交通需要に対応するための「小田原都市計画道路マスタープラン」ができました。これで、ほぼ道路のネットワーク調整が終わり、平成10年3月現在で23路線、延長78・63キロメートルが決まっています。

また、小田原は、今や神奈川の西の玄関から、富士や箱根・伊豆を含めた交流拠点になりつつあります。西湘バイパスや小田原厚木道路などの幹線道路や、新幹線や小田原急な6線も、鉄道やバスを持ち、県の新鋭計画にも、「交通網の整備と豊かな自然環境、歴史、文化を生かした質の高い都市づくりを進めていく」とあります。

市でも、お堀と桜並木などの歴史的な景観を生かしたシンボルロード・小田原駅御幸の浜線（御幸通り）や、両側にハナミズキなどを植え、落ち着きのある環境づくりを目指した栄町小八幡線など、市民の皆さんの生活に欠かせない道路をこれからも計画的に整備していきます。



「究極の小田原らしさ」を求めて 都市景観

(21世紀への道 そのⅢ)

21世紀、小田原はどのようなまちになっていくのでしょうか。

すばらしい自然と風土、そして伝統や歴史など、多くの財産を持つ小田原市は、昭和15年に県下7番目の市として誕生しました。

「街の表情」は、道路や川、公園と建物などが一体になって造られます。なかでも、道路は沿道の街並みの「顔」を造り出すために大切なもの。

今後は、電線類の地中化に加え、ポケットパークやせせらぎ水路などのオー

ブンスペースづくり、さらに、街路樹や照明などの演出によって、地域の個性を生かした道づくりを進めていきます。

単に機能だけを追求するのではなく、ゆとりや安らぎを感じ、子供もお年寄りもみんなが歩いてみたくなる、そんな道でいっぱいになります。21世紀の小田原は、こんなまちになっているのです。

「2つのやさしさを求めて」 福祉の街づくり

(21世紀への道 そのⅣ)

道行く人が、安らぎやうるおい、そして季節などに心で感じられるような心でやさしい道。

しかし、これだけではすべての人にやさしいとはいえません。体にハンディキャップをお持ちの方や、お年寄りの方にも使いやすさ、もうひとつのやさしさを持つ道でなければならぬのです。

将来、すべての施設がだれにも安全で快適に利用できるようにするために、県では福祉の街づくり条例を作りました。市でもこの条例に基づいて、いろいろな街の整備に取り組んでいます。

道路に段差がなく、誘導ブロック、音の出る信号機などがあればみんなが安心して歩



また、案内サインや誘導サインなどがあれば、目的地に向かって不安なく移動できます。最近、このような設備は街でよく見かけるようになりましたが、障害者や高齢者に必要なのはまだまだあるのです。

一方で、すべての人にやさしいことと景観への配慮という、いわゆる2つのやさしさの両立は、なかなか難しい面もあります。

例えば、黄色の誘導ブロックは視力障害者と調和しない場合が多く、また、石畳の舗装や植込みなども、場合によっては歩きづらく、障害物となってしまうこともあります。

これからの道づくりは、これら相反する問題をどう折り合いを付けていくかということも重要な課題になってきます。

通学路の四季

私が通っている通学路からは、報徳の四季が見られます。

春、梅の木に花がさくと、通学路はあまい香りでいっぱいになります。4月ごろには、田んぼにれんげが咲き、お母さんへ花束のプレゼント。川のぞけば、めだかやふなやこいなどもいます。

夏、田んぼに水が入ると、とてもすずしげな景色になります。毎年、カモのつがいやがやってきて、気持ち良さそうに泳いでいます。赤ちゃんもがわいんです。

秋、田んぼのいねが黄金色になり、赤とんぼが飛びます。帰り道は友達とくつき虫を取って遊んだりもします。いねがりの後に、キジを見つけたこともあります。しっぽが長く、きれいな緑色をしていました。

冬、水たまりに氷が張り、ふむとバリッとわれます。富士山、箱根の山、丹沢の山々に雪が降ると、とてもきれいです。

この道は、私が小さいころ、おばあちゃんが話をしたり歌を歌ったりしながらよくおぶって歩いてくれた、思い出の道でもあります。

学校まで行くにはちょっと遠回りなのですが、とても好きな道です。



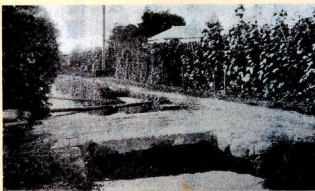
報徳小学校6年 松蔭裕子



歴史街道 小田原を愛した人々②
郷土歴史家 三津木國輝

篤行者として村びとから敬慕された

林 佐太郎



佐太郎の造った石橋

は代々3町歩(約3ヘクタール)余を有する農家であったが、明和5年(1768)父弥左衛門が没したころには衰微し、わずか2反歩(約20アール)ほどになってしまっていた。しかし、佐太郎はよく働き、家運を盛り立て、しばらくして1町歩余の田畑を取り戻した。

また、佐太郎の母は幼いころに小田原大地震(元禄16年(1703)11月23日、午前2時)に遭遇したことから、地震を大變に怖がっていた。その上、膝を病んでからは、家の中を這うような状態であった。このような母のために、安心して生活ができるよう家には太い柱を数多く補強するなど、常々母への心配りを怠らなかつた。

一方、佐太郎は困っている村の人たちに対して、隔年不作で困っている人への耕作指導、仕事のおくれている人に労働力の援助、年貢米が足りなくて困っている人にその不足分の補充など、物心両面から親切の手を差し伸べていた。

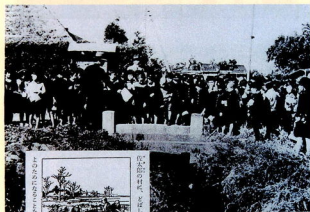
佐太郎44歳の明和7年(1770)村人から推されて町田村の組頭となつて、安永9年(1780)まで名

主を補佐して村のための仕事をしたが、その時期に佐太郎が中心となつて行った仕事として、今日でも語りつがれているのが「石橋」である。当時、町田村には村内を流れる用水路(穴部堀)に3か所の土橋があったが、穴があいたり、出水のため流出したりして村人は難儀をしていた。そこで佐太郎は村役人と相談してこの橋を石橋に架け替えることにし、工事の経費は佐太郎たち村役人の給金を充て、村人と協力して3か所の石橋架橋を完成させた。

大震災の後、鉄筋コンクリート橋に姿をかえた。(現在、用水路は暗渠となり、歩道となっている。)その際、石村を尾柳小学校(現在は町田小学校と山中中学校)に保存し、当時をしのぐ資料とした。

安永7年(1778)佐太郎は、村びとへの善行と孝養によって、小田原藩主大久保忠頼から表彰された。その際、佐太郎に課せられる税と労役を生涯免除され、老母には年々扶持米が給付された。

天明5年(1785)には町田村の名主となつて村の発展に尽力し、享和元年(1801)75歳の天寿を全うした。



村佐太郎の石橋の献明を聞く(芝居)



(明治34年)村佐太郎の献った修身教科書

江戸時代中期(18世紀)に小田原藩領町田村(小田原市東町)の地域発展に尽力し、村民から「家にあつても佐太郎、畑にあつても佐太郎が手本じゃ」と尊敬され、組頭、名主をつとめ、篤行者として小田原藩主

から表彰された人が林佐太郎である。佐太郎の事績は、明治時代には尋常小学校の修身の教科書に載り、現代にまで語りつがれている。

佐太郎は、享保12年(1727)相州足柄下郡町田村で生まれた。家

人の道

神野クニさん（永塚在住・100歳）

百寿こえ またあらたなる お正月

平成11年元旦 クニ作

明治31年生まれのコニさんは今でも元気なスーパーおばちゃん。年1回の検診以外は医者にかかったことがなく、いたって元気。生活面では、食事・入浴・トイレなど自分ですべてでき、家族の介護を必要としない。日課の糸つむぎに加えて、畑で野菜を持つのが大好きで、藤を見て種まきも指示するという。現在は、週1回施設のデイサービスに通い、仲間との会話を楽しみにしている。

米寿（88歳）の祝いに俳句集「紫陽花」を発刊し、今回も自筆で「百才万歳」と書いた記念誌を発刊した。



人生の道を極めたおばあちゃんの作品には、小田原の道を詠んだものがキラリと光っている。

新年を かきね重ねて 八十路こえ
草笛を 吹きつつ子等の 帰り道
友見舞う あぜ道の氷 とけはじめ

最近では少なくなってきたが、時間があれば畑に出てくわを持つ

かきぞめを 百寿とかいて 神だへ
（平成10年元旦 クニ作）
市長の表敬訪問を受け自筆の掛け軸の前でっけり



小田原で遊ぶ⑤

春が待ち遠しい今日このごろ。家族そろってのサイクリングはいかがですか。天気の良い日は富士山の眺めも最高。堤の黒松の並木をくぐって自然に囲まれますと、会話は弾み、これで家庭円満なんてステキですね。

渡辺家（蓮正寺在住）の おすすめスポット

小田原アリーナの周辺は道も整備され、交通量も少なくサイクリングに最適。アリーナ横から酒匂川に沿ったサイクリングコースへちょっと気軽に出发してみたい。休日にはおやつを持って、開成町の公園まで半日かけて出かけましょう。往復10kmのコースも苦になりません。時間があれば大口まで行くもよし。さわやかな春風に始まり、初夏には鳥たちのさえずりと釣り人の歓声、秋には稲刈り風景、冬には雪化粧の山々と1年中酒匂川に広がる自然がやさしく迎えてくれます。

小田原の道で楽しむ 親子で酒匂川サイクリング



健康増進のため酒匂川サイクリングコースでのランニングも楽しむ渡辺家さん。本当は見るスポーツが好きだという由岐子さん。幼稚園から自転車に乗れたというあずさん（東富水小2年）。酒匂川のほとりには毎朝新しい発見や驚きがあるという。

思い立ったらすぐ出発！

「さあ行くぞ！」と意気込んでもダメ。「ちょっと自転車に乗って」と気軽に出発することが長続きのコツ。車で何度も通った道でも、ゆっくりとペダルをこいで、のんびりと風を

切って視線を変えれば新鮮なものばかり。興味があれば好きなときに止まってじっくりと見られるのがうれしいですね。

私たちは近所に住んでいるので、顔見知りや同級生に偶然会って、サイクリングそっちのけでちょっと立ち話なんて、日常茶飯事。

特集
こころの道

2月は省エネルギー月間

家庭でできる冬の省エネルギー。皆さんもご協力ください。

●厚手のカーテンやカーベットを使い、暖房温度を1度下げること、全国で約43万世帯分の年間エネルギー使用量が節約できます。

●家庭で使う電気の約16%は照明用です。蛍光灯はこまめに切った方が経済的です。

●全国の家でシャワーのお湯を1分間流しっぱなしにすると、1年で東京ドーム約200杯分のお風呂が沸かせるほどの石油が無駄になります。流しっぱなしはやめましょう。

●1日5分の自動車のアイドリングをやめると、1年間で約2,800円の節約になります。急発進、急加速もガソリンの無駄です。

●天気の良い日は、カーテンを開け太陽熱を取り入れ、太陽熱温水器を利用したりと、エネルギーの節約に努めましょう。

☎ 環境保全課 ☎ 33-1481

共同募金運動の結果報告

平成10年度10月の「赤い羽根」の一般募金は、20,011,557円、年末たすけあい募金は、12,702,174円でした。

一般募金は、県共同募金会に送られ、県内の社会福祉協議会や社会福祉施設・福祉団体などに配分されます。

年末たすけあい募金は、本市社会福祉協議会の配分委員会で、準要保護世帯・ひとり暮らし老人・病後性老人・知的障害者（重度・最重度）の介護者・身体障害児（1級・2級）の介護者・社会福祉施設などに配分しました。

☎ 社会福祉協議会 ☎ 35-4000

2月7日は北方領土の日

☎ 行政総務課 ☎ 33-1291

統一地方選挙の立候補予定者への事前説明会

4月11日田の神奈川県議会議員選挙と4月25日田の小田原市議会議員選挙の立候補予定者についての事前説明会を、次のとおり行

います。

なお当日は、出納責任者（予定者）の説明も行います。

①神奈川県議会議員選挙

日時 3月9日(火)13:00～

場所 市役所大会議室

②小田原市議会議員選挙

日時 3月11日(木)13:00～

場所 市役所大会議室

※出席者は予定者 1人につき3人以内

※印鑑（認印）を用意

※資料、用紙などは当日配布

☎ 選挙管理委員会 ☎ 33-1741

低公害車は栄町駐車場料金が1時間無料に

平成11年2月1日(月)から、低公害車で栄町駐車場を利用される場合、1回につき初めての1時間分が無料になります。

この無料サービスを受けるためには、あらかじめ証明書の取得が必要です。

対象者 市内に住所がある個人と事業所
対象とする低公害車 電気自動車・ハイブリッド自動車・天然ガス自動車・メタノール自動車

☎ 環境保全課 ☎ 33-1481

地域振興券(商品券)を取り扱うお店を募集!

受付は2月8日から、地域振興券交付本部(市役所5階)で

本市では、地域振興券を3月下旬に発行することになりました。そこで、経営する店舗や事業所が小田原市内にある事業者を対象に、「小田原市地域振興券」を取り扱う特定事業者を募集します。

希望するお店は、登録申請書に必要事項を記入して地域振興券交付本部（市役所5階）に持参または郵送してください。2月8日から受け付けます。商店街単位でまとめて提出することもできます。

<ご注意>

○申請書は、市役所、支所・連絡所、マロニエ、駅前窓口コーナー、商工会議所で配布します。

○地域振興券の使用開始日までに特定事業者の登録を受けるためには、3月10日までに申請する必要があります。申請はお早めに。

○申請書は、地域振興券を換金するための金融機関の口座ごとに提出してください。いくつかのお店を経営している方で、一括して振り込みを受けた場合には1枚、お店ごとに分けて振り込みを受けた場合にはお店ごとに1枚ずつ必要になります。

○市外に店舗などをお持ちの方は、その市町村にお問い合わせください。

※地域振興券の交付方法などは、広報おわら2月15日号でお知らせします。

特定事業者Q&A

Q 特定事業者の業種に制限は?

A 特に制限は設けていません。小売業だけでなく、運輸・飲食・各種サービス業など、幅広い応募をお待ちしています。

Q 受け取った地域振興券を換金するには?

A 別にお知らせする日までに横浜銀行・スルガ銀行・さが信用金庫の市内各店舗にお持ちください。市役所で確認した後、指定された口座に振り込みます。金融機関の窓口には必ず市から発行された特定事業者登録証を提示してください。

Q 特定事業者になったら気をつけることは?

A ①地域振興券を使う店だとわかるように、市が発行するステッカーをお客様の見やすい所にはってください。

②地域振興券を大量に持ち込んだり、明らかに偽造とわかる券が持ち込まれたときは、受け取りを拒否して、市に通報してください。

③他の市町村が発行した地域振興券では取り引きできません。ご注意ください。

※特定事業者に登録された方にはマニュアルをお送りしますので、参考にしてください。

☎ 〒250-8555 小田原市役所
地域振興券交付本部 ☎ 35-8877

Odawara Driving School

当校は、安全行動のとれる初心者運転者の育成に努力しています。

教育科目

大型・けん引・普通・普通自動二輪

(ローン制度あり)

当校より徒歩5分

スクールバスあり



神奈川県公安委員会指定
小田原ドライビングスクール
重正寺540-2 TEL (36) 1215-7

一畳の紙に大筆で書き初め

1月9日(土)小田原アリーナで、小学生から中高生までの約100人が参加して「新春一文字を書く」が開かれました。このイベントは各人が思い思いの一字を大書するもので、今年のテーマは「爽」。「如」「富」「元」など暗い世相を吹きとばすような作品も登場。さて今年は、普段は持たない大きな筆で描いたような、思いどおりの1年となるのでしょうか。



募集

市政モニター☆きらめき倶楽部 第4期モニター

市政モニター制度では、市民の皆さんの積極的な参加により、小田原のまちづくりのための意見や要望をお伺いしています。主な活動は、アンケート調査や随時提案、市政に関する研修会への参加などです。また、「市民と市長とのほっと懇談会」開催実行委員として、企画運営の参加をお願いしています。

小田原のことをもっと知りたい方、まちづくりに参加したい方、ぜひ応募ください。応募資格 18歳以上で小田原市に住居登録をしている方、または外国人登録をしている方。ただし、小田原市職員・公職選挙法で公職にある方・本市の市政モニター経験者はご遠慮ください。

募集人員 75人（応募者多数の場合、地域・性別などのバランスを考えて選考）

任期 平成11年4月（愛媛日）～平成13年3月31日

※若干の謝礼を予定しています。

申込方法 はがきに住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号・職業・性別・簡単な応募理由を書いて送付。

申込 2月28日（消印有効）までに、
〒250-8555小田原市役所広聴聴室
☎33-1263

ホームステイ受け入れ家庭

姉妹都市、アメリカのチュラビスタ市から、ボニタビスタ高校の歌って踊る合唱団「ザ・ミュージック・マシーン」一行80人が小田原を訪れます。ホームステイ受け入れをしませんか。募集要項は市民交流課（市役所5階）、おだわら国際交流ラウンジ、支所・連絡所・窓口コーナーにあります。

滞在期間 4月2日（金）～6日（火） 4泊5日

申込 2月26日（金）までに、

市民交流課 ☎33-1707



教育委員会の臨時職員台帳登録者

臨時職員台帳への登録を希望する方を募集します。登録し方には、臨時職員が必要になり次第随時連絡をします。採用の時期は不確定です。募集職種と仕事の内容は別表のとおりです。

申込方法 履歴書に必要事項と希望の職種（複数可）などを書いて、各申込先に送付
〒250-8555小田原市役所学校保健課
〒250-0863小田原市飯泉1248小田原市学校給食センター

賃金は、平成10年度の額です。

職 種		仕事の概要	勤務時間	賃金	申込先
学校の給食作業員関係	臨時給食調理員 給食作業員	学校給食の調理作業	1日 8時間	日給6,160円	学校保健課
	米飯パート	米飯給食実施日の洗浄作業 週2日の勤務	時間パート	時給770円	
	受入パート	学校給食センターなどから運ばれてくる学校給食の受取作業、食器の洗浄作業、学校給食センターなどへの食器の返送作業			
	学校給食共同調理場 給食作業員	学校給食の調理作業			

☎学校保健課 ☎33-1693、学校給食センター ☎36-7512

お知らせ

市・官公庁からのお知らせ

就職相談会

企業の説明・面接などを行います。

日時 2月5日（金）13:00～16:00

場所 中央公民館

☎公共職業安定所 ☎23-8609

商工会議所 ☎23-1811

市商工課 ☎33-1513

街づくり景観アドバイザー相談

家の建替えや修繕について、民間建築士と市の職員が相談を受けます。

建物のデザインや色彩、緑化など、ちょっとした工夫で街並みは大きく変わります。魅力ある街並みの創出は、皆さんが主役です。

日時 3月3日（水）10:00～

場所 小田原市役所

申込 2月19日（金）までに、

都市計画課 ☎33-1573

障害者のみなさまへ

●重度心身障害児者歯科検診

日時 2月10日（水）9:30～13:00

場所 保健センター

内容 歯科検診と相談・指導

☎障害福祉課 ☎33-1467

●小田原市歯科二次診療所

一般の歯科医院で治療が困難な障害者の方がご利用できます。

場所 南鴨宮2-27-19（県営住宅ベアーハイム鶴宮2階）

対象 小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町に在住の障害者

診療日時 月～木曜日（祝祭日除く）の9:00～12:00、13:00～17:00

内容 診療（火・木の午前のみ）・指導
※診療は予約制です。（予約受付は月～金曜日の9:00～16:30）

申込 歯科二次診療所 ☎48-6775

外科・内科
脳神経外科

渡辺医院

院長：渡辺明人

CT並びにX線撮影装置、遠赤外線温熱療法、心電図等

診療時間	午前	午後
月・火・水・金	8:30～12:30	3:00～7:00
木・土	8:30～12:30	午後休診
日	9:00～12:00	午後休診
祝日	休	診



愛しい幼子の成長を願い
人形は心を込めて飾られる
祖母から母へ、そして娘へ
春の柔らかな光に頬染める
少女の無垢な笑顔に
幸せの喜びを重ねて――。

只今、'99年新作特別感謝市開催中
人形 美さひや 小田原市 小田原市役所 ☎23-0311
おまつり ☎37-0311

所得税と市・県民税 3月15日までに申告を

2月16日(火)から3月15日(月)までの1か月間は、所得税と市・県民税の申告期間です。3月になると窓口が大変混雑します。申告はお早めに。(土・日は休み)

◆所得税

◆確定申告が必要の方

①事業所得や不動産所得などがある方で、平成10年中の所得金額の合計額が、扶養控除などの各種の所得控除の合計額を超える方

②給与所得者で、

- ・平成10年中の給与収入が2,000万円を超える方
- ・給与以外の所得が20万円を超える方
- ・2か所以上から給与を受けている方
- ・不動産やゴルフ会員権などの資産を譲渡した方

◆確定申告の受付

所得税の確定申告は、税務署で受け付けます。提出は郵送でもできます。

還付申告書などは市民税課(市役所2階)でも受け付けますが、青色申告、譲渡所得、事業所得、不動産所得、住宅取得等特別控除のある方は税務署で申告してください。

なお、サラリーマンの方などで医療費控除や住宅取得等特別控除などの適用を受けるための還付申告は、2月16日より前でも税務署で提出できます。

※注意点

- ・申告書や収支内訳書の記載できる所には、事前に記載してください。
- ・昨年の控えをお持ちください。
- ・医療費控除を受けられる方は、必ず領収書の合計額を算出してきてください。

※特別減税をお忘れなく

平成10年分の所得税では、次の1と2の合計額が減税されます。(所得税額が限度)

- 1 本人……………38,000円
- 2 控除対象配偶者または扶養親族1人につき……………19,000円

◆税理士の無料申告相談

税理士会による無料申告相談は次のとおりです。所得税のほか、消費税の相談も行っています。(申告の相談は税務署でも行っています。)

○2月16日(火)～19日(金) マロニエ

○2月24日(水)～26日(金) 農業協同組合本店
受付時間 9:30～11:00、13:00～15:00

◆納税

所得税は、3月15日(月)までに最寄りの金融機関、郵便局または税務署で納めてください。また、便利・安全・確実な振替納税をご利用ください。

◆市・県民税

◆申告が必要の方

①平成11年1月1日現在小田原市に住所があり、平成10年中に所得があった方(税務署に確定申告をした方は、市・県民税申告は不要)

②平成10年中に配当所得があり、源泉分離課税を選択した方

③市外に住んでいるが、市内に事務所や家屋敷のある方

④そのほか、申告書の送付を受けた方(申告書の用紙は2月上旬に郵送)

◆申告の受付

市・県民税の申告は、市民税課(市役所2階)で受け付けます。

◆出張申告相談

月日	時間	場所
2月17日(火)	9:00～11:00 13:00～16:00	富水連絡所
	9:00～11:00	片浦支所
2月18日(水)	13:00～16:00	水産海浜会議室 (小田原漁港内)
	9:00～11:00 13:00～16:00	大窪支所
2月19日(金)	9:00～11:00 13:00～16:00	上府中支所
	9:00～11:00	郷土文化館
2月22日(月)	9:00～11:00 13:00～16:00	尊徳記念館
	(※注) 2月23日(火) ～25日(木)	マロニエ
2月26日(金)	9:00～11:00 13:00～16:00	曾我支所
	9:00～11:00 13:00～16:00	下曾我支所
	9:00～11:00 13:00～16:00	桶支所

(※注) マロニエでは、混雑解消のため対象地区を設定します。

期日	対 象
2月23日(火)	下府中地区の人
2月24日(水)	国府津地区の人
2月25日(木)	酒匂地区の人

◆申告に必要な書類

①申告書

②所得の明細書(源泉徴収票、雇用主の給与支払証明書、収支の明細書など)

③所得から差し引かれる各種控除の領収書など

◆申告書は、郵送された申告書に同封の「申告書の書き方」を参考に、ご自身で記載してください。

■ 所得税の申告…〒250-0042 小田原市荻窪 440 小田原税務署 ☎35-4511

市・県民税の申告…市民税課 ☎33-1351

今月の納税

固定資産税・都市計画税第4期分
納期限は3月1日(月)

口座振替の方は、預貯金残高の確認を
■ 資産税課 ☎33-1361

募集

人員、作品など

北條五代祭り武者行列の参加者

5月3日祝の武者行列に参加しませんか。

募集人員 16歳以上の男女各30人・先着順
※用意された衣装を着られる方

①男子 役柄は各隊(槍持・旗持・足軽など)を中心に編成

②女子 女武者隊特別編成

参加料 3,000円(衣装代の一部負担)

申込方法 住所・氏名・年齢・性別・電話番号を書いて持参または現金書留で郵送

申込 3月26日(金)までに、

〒250-0014 小田原市城内1-21

小田原市観光協会 ☎22-5002

はり・きゅう・指圧・マッサージ (広告)

あすか治療院

在宅リハビリマッサージ (御自宅に訪問して行う)

健康保険取扱

小田原市栄町1-6-12 白バラビル3F
エレベーターあり

☎(23) 5350

●定休日/第2・3日曜日、祝日

ばんこに手作り菜根漬

料理の基本は素材です。素材を優しく調理する。単なる食べ物ではなく常に「料理」が見える料理であってほしい。料理の向こうに見えるたくさんの方の顔(生産者、業者、料理人)の真心を感じてもらえる料理、弁当を作り続けております。うちのご飯は美味しいです。

料理人 伊藤勇作

写真の弁当はのり巻きセット 500円、日替わり 600円、いすき弁当 950円です。近くでしらべたい、弁当でも採りたいします。

創作料理おぼんばい 菜根漬

店名 栄町1-6-38 ☎24-3027

天幕の大高橋工務店

〒250-0014 小田原市城内1-21 ☎22-5002

講座・教室・展示

手作りワインで乾杯!!

今回の青年のついででは、手軽にできるワイン作り挑戦します。出上ったワインはアウトドア料理とともに、親睦を深めた仲間たちと楽しみます。

日時 3月7日(日)10:00~12:00

3月20日(土)13:00~18:00 (全2回)

場所 マロニエ

対象 20歳~おおむね30歳までの方30人・先着順

参加料 800円 (傷害保険料を含む)

申込 2月8日(月)から、青少年課 ☎33-1723

保健・福祉施設ってどんなところ?

福祉サービスの内容をよく理解していただくための施設見学会です。貸し切りバスでまわります。

日時 3月16日(火)13:00~17:30

場所 老人保健施設 水之尾、特別養護老人ホーム たばの里

対象 市内在住の方45人・先着順

※保険料50円は自己負担

申込 2月8日(月)から、社会福祉協議会 ☎35-4000

園芸教室「フラワーアレンジメント講習会」

藤のかごに、洋らんや生け花をいける豪華なフラワーアレンジメントです。

日時 2月27日(土)13:30~15:30

場所 フラワーガーデン

教材費 3,000円

対象 35人・多数抽選

申込方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号



号・教室名を書いて、2月17日(水) (必着)

までに、〒250-0055小田原市久野3798小田原フラワーガーデン

◆草花即売会 (雨天中止)

今月は14日・28日 (9:00~15:00)

☎ フラワーガーデン ☎34-2814

税金

納税、年金について

2月は特別土地保有税の申告納付の月

特別土地保有税は、一定面積以上の土地の取得や保有に対して、固定資産税とは別に課税される税金です。納税義務者ご自身が税額を計算し、申告納付することになっています。次の要件に該当する方は、忘れずに申告納付してください。

対象 平成10年1月2日~平成11年1月1日までに非課税項目に該当しない市内の土地を合計で5,000㎡以上取得された場合

○非課税

住宅用地として使用している土地、農林業の経営規模拡大などのために取得した土地

☎ 資産税課 ☎33-1365

国民年金・国民健康保険の保険料
社会保険料控除で税金も安くなります

平成10年中の国民年金保険料

納付方法	金額	合計
毎月納付	定額 平成10年1~3月12,800円	158,100円
	4~12月13,300円	
1年前納	定額 年額 155,750円	162,900円
	付加 年額 6,150円	
6か月前納	定額 6か月分 78,920円×2	157,840円
	付加 6か月分 81,290円×2	

平成10年1月から12月までに支払ったあなたの自身の保険料と、あなたが支払った配偶者やその他の親族の保険料は、全額「社会保険料控除」として所得から差し引かれるため、税金が安くなります。確定申告などの際は、

控除の手続きをお忘れなく。

平成10年中の国民年金保険料は表のとおりです(国民健康保険料の額はご家庭ごとに異なります)。実際の納付済額は、1月末にお送りした「納付済額のお知らせ」を確認してください。

●保険料を納めない

・その年の社会保険料控除の対象になりません。

・国民年金保険料の未納があると、満額の老齢年金が受けられません。また、万一の事故などの時に障害年金や遺族年金が受けられなくなることもあります。

・国民健康保険料の未納が続くと、保険証の更新のときに新しい保険証を市役所窓口で受け取ることになり、有効期間が短い(6か月間)保険証になったりする場合もあります。また国の法律改正により、平成12年度からは国が定める一定期間以上未納すると、いったん保険証を返していただきます。(病院で医療費を全額支払ってから、自分で市に請求するようになります。)

●お支払いが困難な場合は

やむをえない経済的な事情のために国民年金保険料の納付が困難な方は、申請により免除される場合があります。免除になった方の年金保険料の3分の1は、国が負担します。また国民健康保険でも、減額や分割納付ができる場合があります。ご相談ください。

☎ 国民年金・保険年金課 ☎33-1867

国民健康保険・保険年金課 ☎33-1845

市民プラザ

水彩画習作展

日時 2月19日(金)~21日(日)10:00~18:00 (21日は17:00まで)

場所 小田原駅前ふらっとスポット

☎ 水彩画クラブ・森田 ☎37-6186

ウォン・ウィン・ツァン
ピアノソロコンサート

日時 2月6日(土)

場所 日本キリスト教団小田原教会

定員 100人

チケット 前売4,500円・当日5,000円

☎ ウォン・ウィン・ツァン in 小田原実行委員会・高橋 ☎24-7020



春よこい!! 立春大福はつくる。

和菓子 菜の花

和菓子菜の花では、月に一度の思い入れを込めて月一菓子を作っています。ここであつてずうとやることになった名物の和菓子もあります。創意工夫の実験場みたいなものです。今月は「山形産のもち」という無農薬有機栽培の餅米と手揉みの蓬をい、それにひと工夫してつぶつぶのお餅の感触をのこしました。「立春大吉餅」として2月4日より発売です。2月11日はつづたいと思っています。

— 菜の花店主 高橋 一平

● 毎月通算 (本席と後席) 2,280円(税込) 全席定食
● うつろの会 TEL 241 7920 11:30AM~6:00PM OPEN

小田原駅前大通り ☎0465-23-1567 営業時間/午前10時~午後8時 2/17定休





ほほえ 店主の微笑みキャンペーン しろやま商店会

小田原駅西口のしろやま商店会は、今年度設立10周年を迎えました。これを記念して、いくつかの事業を行っています。

みなさんに親んでもらえることを願い、商店会と自治会とで、西口地区の道路に「山手通り」「愛宕坂」「駅前西口通り」「しろやま通り」などと、通りのアイデンティティを大切に名称をつけたのもその一つです。また、それにあわせて、この通りの名前を入れた「案内地図板」をシンボルタワーの前に新設しました。前に各店舗で作った大のれんに合わせたデザインになっています。

またC1事業として、ロゴとシンボルマークも決めました。シンボルマークは、しろやまの頭文字「S」と「山」から構成され、商店会のエリアと会員の和を表しています。イ

メージカラーはほのぼのとしたピンクです。

そして新年からは、「店主の微笑みキャンペーン」がスタートします。これは、店主の顔の見える商いをしよう、店主の微笑みも大事な売り物と考えた企画です。たとく不景気で暗くなりがちな昨今、店頭のポスターをぜひ一度ご覧ください。一緒ににっこりしたくなると思います。

個性豊かなお店が集まったしろやま商店会。魅力ある店主の顔もしっかり覚えてください。もしかしら「天使」に見えてくるかも？

☎ しろやま商店会・平井 ☎ 32-0964



こども

児童対象の行事など

図書館こども映画会

時間 13:30～

場所 かめ図書館

定員 180人・当日先着順

プログラム (アニメ)

① 2月7日(日) 山ねずみロックリーチャック
じいさまがえるの旅ほか

② 2月13日(土) 赤毛のアン18

③ 2月14日(日) おにたのぼうしほか

☎ かめ図書館 ☎ 49-7800

ほほえみ演奏会

小田原市シルバー大学の皆さんが、小田原にまつわるおはなしを大型紙芝居にしました。

日時 2月27日(土) 10:30～11:30

場所 尊徳記念館

内容 大型紙芝居「りゅうぐうにようぼう」・手品

対象 幼児・児童・生徒40人(保護者同伴可)・先着順

申込 2月8日(月)から、
尊徳記念館 ☎ 36-2381

国府津公民館スタディーズプラザ 冬の料理教室

魚のホイル焼きや、白玉粉・ゆであずきを使った料理を作りましょう。

日時 2月27日(土) 9:30～12:00

場所 国府津公民館

対象 市内の小学校3年生～中学生24人

申込方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号

号・学校名・学年・「冬の料理教室」を書いて郵送。

申込 2月15日(月)(消印有効)までに、
〒256-0812 小田原市国府津2485-1
国府津公民館 ☎ 48-2035

子供映画会と金次郎のおはなし

日時 2月13日(土) 10:00～ (9:50開場)

場所 尊徳記念館

内容 べっかんご鬼・鴨とりごんべえほか

定員 60人・当日先着順

☎ 尊徳記念館 ☎ 36-2381

よいこ名作劇場

日時 2月14日(日)

① 10:00～12:00 ② 13:30～15:30

場所 中央公民館

定員 各70人・当日先着順

プログラム 銀河鉄道999

☎ 中央公民館 ☎ 35-5300

中央公民館スタディーズプラザ「春よ来い」

自由に絵を描いた素焼きの鉢に草花を植えて、あなただけの鉢植えを作りましょう。

日時 2月27日(土) 13:30～15:30 (13:00開場)

場所 中央公民館

定員 小学生以下30人

教材費 200円

申込 2月10日(水)から、
中央公民館 ☎ 35-5300

講座・教室・展示

講演会・展示・発表

福祉救援ボランティア講演会

大地震などの災害に遭ったとき、福祉救援ボランティアはどう動くかや、ボランティアの力を有効に生かすためのコーディネーターの役割・必要性などについて学びます。

日時 3月9日(火) 13:30～15:30

場所 中央公民館

講師 横浜市立大学教授 加藤彰彦さん

定員 100人・先着順

申込 2月8日(月)から、
社会福祉協議会 ☎ 35-4000

尊徳記念館100万人達成記念 おたわら市民大学「報徳塾」公開講座

「現代の報徳～尊徳の影響を受けた企業家達」と題し、一円塾主宰の長澤源夫さんを講師に日本を代表する数多くの企業のリーダーがどのように尊徳の教えを運営に受け入れ成功を収めたのか、その考え方について学びます。

日時 2月14日(日) 10:00～12:00

場所 尊徳記念館

対象 150人・先着順

申込 生涯学習課 ☎ 33-1720

発掘された いにしへの国府津三ツ保遺跡展

県内有数の古墳時代集落の内容を紹介し、また弥生時代、奈良・平安時代、中・近世の遺物も展示します。

日時 2月6日(土)～14日(日) 9:00～17:00

場所 かめ図書館 ※月曜休館

○調査成果のスライド発表

日時 2月6日(土) 14:00～15:00

場所 かめ図書館

定員 180人・当日先着順

☎ 文化財保護課 ☎ 33-1714

イベント

各種催しものなど

小田原梅まつり

小田原にいち早く春の訪れを告げる梅まつり。曾我梅林と小田原城址公園内の梅林では、期間中いろいろな催し物が行われます。

期日 2月1日(月)～28日(日)

◎曾我梅林(別所・原・中河原)

2月1日(月) 梅まつり開園式

7日(日) 寿獅子舞

11日(祝) 流鏑馬(雨天の場合14日)・俳句大会・野だて

12日(金) 野だて

13日(土) 子供たちの民舞と太鼓・野だて

14日(日) 短歌大会・ちょうちん踊り・寿獅子舞・野だて・権飛ばし大会

17日(水)～23日(火) 梅の里むかし展

21日(日) ちょうちん踊り・寿獅子舞

28日(日) 寿獅子舞

期間中 梅干コンクール・写生(小・中学生対象)・小田原水墨画展・昔の農具展

◎城址公園

2月4日(木) 立春青空会

7日(日) 野だて

11日(祝)～14日(日) 梅の盆栽展

21日(日) 野だて

19日(金)～21日(日) 菓子展示会(市民会館)

※散策を楽しみたい方には、フラワーガーデンの深淵の梅林や辻村植物公園もおすすりめ。

☎ 観光協会 ☎ 22-5002、観光課 ☎ 33-1521

荻野アンナのひとあし早いSpringトーク

男女の対等なパートナー

シップと、男女共同参画

型社会の創造を考えて

みましょう。

期日 2月28日(日)

13:30～15:30

場所 市民会館

内容 「女と男の21世紀」

講師 慶應義塾大学文部

助教授・芥川賞作家 荻野アンナさん

定員 200人・先着順

託児 2歳以上就学前まで(予約制)

申込 2月1日(月)から、

女性行政課 ☎ 33-1725

昼のミニコンサート

全国的にコンサート活動をしている岸義紘さんの、曲ごとにソプラノ・アルト・テナーのサクソフォンを使い分けたミニコンサートです。

期日 2月17日(水)12:30～12:45

場所 市役所2階談話ロビー

演奏 岸 義紘さん(サクソフォン)

柴田敦子さん(ピアノ)

演奏曲 G線上のアリア(バッハ)ほか

※演奏者(ボランティア)募集中!

☎ 市民交流課 ☎ 33-1706

おだわらシルバー大学文化祭 オーシャンクルーズ文化祭

子供からお年寄りまで楽しめる文化祭を同時開催。ぜひ遊びに来てください。

場所 中央公民館

●おだわらシルバー大学文化祭

期日 2月13日(土)～14日(日)

内容 久能鎮さん講演会「話し方・接し方」(13日 10:30～)、橋家園蔵さん講演会「笑いがなければ人生は味無し」(14日 14:00～)・手品・紙芝居・コースほか

※講演会の定員 各300人・先着順

☎ 生涯学習課 ☎ 33-1720

●少年少女オーシャンクルーズ文化祭

期日 2月14日(日) 10:00～15:00

内容 「大パニックオーシャンフェスティバル」～タイタニックに負けない堂と感動を～おぼけ屋敷・劇・ディスコ大会・ビデオ上映・クルーズの記録展示・模擬店ほか

☎ 青少年課 ☎ 33-1723



図書館特別映画会

期日 2月11日(祝)13:30～(13:00開場)

場所 かもめ図書館

上映映画 「リリー・マルレーン」字幕スーパー版

定員 180人・先着順

☎ かもめ図書館 ☎ 49-7800

郷土文化館の歴史探究会 「梅の里の史跡をたずねて」

曾我の里は、梅林や曾我兄弟のふるさとの地として、また数多くの史跡や文化財があることでも知られています。

期日 2月21日(日)雨天中止

コース 国府津駅前(9:30集合)～田島横穴古墳群～別所梅林～城前寺～下曾我駅(15:00解散) ※交通費は自己負担

講師 郷土史家 三津木國輝さん

対象 小学校4年生以上40人・先着順

申込 2月12日(金)から、

郷土文化館 ☎ 23-1377

小田原文学散歩

梅まつりにあわせ、曾我物語ゆかりの城前寺や、文化勲章受章作家尾崎一雄が数々の作品を生み出した下曾我地区を徒歩で巡ります。

期日 2月21日(日)13:00～(12:50下曾我駅前集合)

コース 尾崎一雄文学碑、城前寺ほか

対象 高校生以上30人・先着順

参加料 150円(保険料・教材費、当日集合)

申込 2月7日(日)から、市立図書館 ☎ 24-1056

スポーツ

各種スポーツ大会、講習会など

学校体育施設の利用登録

平成11年度に、市内小・中学校の体育館の利用を希望される方は、登録してください。

期日 2月9日(火)～3月7日(日)

用意するもの

・継続登録の場合

登録証と会員名簿(氏名・住所・電話番号記載)

・新規登録の場合

市内在住・在勤・在学者で作られた10人以上のグループの名簿(利用を希望する学校長の承認が必要)

☎ 小田原アリーナ ☎ 38-1144

実業団対抗駅伝競走大会

県西地区2市8町の企業・事業所対抗の駅伝大会です。ご声援と選手通過のときの交通規制にご協力ください。

期日 2月21日(日)9:00～11:00

コース (第1区) 市役所～飯泉橋～(第2区) 青果市場前～国府津公民館前～中河原交差点～(第3区) 上府中公園～鍛冶橋～(第4区) 明治製菓入口～登田駅～(第5区) 川崎陸運小田原営業所～環境事業センター～(第6区) 舟原公民館～ミクニ～(ゴール) 市役所 6区間計29.7km

*車による応援は一切禁止します。

☎ 小田原アリーナ ☎ 38-1147

卓球教室

期日 2月18日(木)・23日(火)・25日(木)・3月2日(火)・4日(木)の全5回 18:30～20:30

場所 小田原アリーナ

対象 市内在住・在勤・在学の小中学生以上50人・先着順

参加料 1,500円(傷害保険料を含む)

申込 2月16日(火)までに、

体育協会 ☎ 24-0343

心におみやげ。
見つけて
小田原。

広報 おだわら

Feb. 1, 1999 No.740

発行 小田原市 小田原市役所300番地 〒250-8555
編集 広報広聴室 ☎0465 (33) 1261 FAX0465 (32) 4640
© 小田原市 1999.2



舟山群島。私は江之浦の漁師たちの故郷を求めて国境・海を越え中国にまで渡った。

芥川龍之介も描いた 海の道・陸の道の入り口 江之浦

10年も前のことが、江之浦のミカン農家、森本俊行さん宅の部屋を仕事場に借り受けた。どてらを着て浜を徘徊する私を、人々は最初不審がっていたが、そのうち顔も覚えてもらえるようになった。この部屋で書き上げた本は岩波新書にはじまり、数十冊になる。私がボランティアでやっているチェルノブイリ子ども基金の江之浦支部を、鈴木由利子さん（江之浦在住）が引き受けてくれ、被曝した子どもたちはときおりここを訪れ、健康を取り戻し帰っていくようになった。

私の参加していた雑誌が廃刊になり仕事を失ったとき、浜の仕事を手伝うことがあった。ワカメを裂いたり、昆布を平したりする仕事だ。このとき私は、漁師たちが関西の言葉を使うことに気づいた。私は彼らがどこから来てここに住み付いたのか、興味を持った。

私は江之浦の漁師たちの故郷を求めて、紀伊半島の石鹿（いじか）から九州、そして中国にまで渡った。海人の基地と言われる長江近くの舟山群島への旅は、日本人の起源に分ける旅となった。中国・朝鮮半島・南方・北方へと、海原を縦横に交差し広がる海の民の道は、目のくらむような想像力をかきたてた。

ところで浜から遙か高所に、旧道が走っている。小田原と熱海を結ぶ道で、崖にへばりつくようなこの道を走り抜けていった人々の中には、漂泊民も多くいた。その人々はマレピトと呼ばれ、権力が一目も二目もおかなければならなかった神々の使いで、記録をとどめず、語り高く、移動し続

ける人だった。彼らは定住を忌避であり、土地への繫絆とみなした。それは砂漠の遊牧民ベドウィンと同じだ。

やがて旧道沿いに、住み付く人が現れる。それは旅人のためのわらじ職人だったり、道中安全祈念の神を祀る人だったりした。神は塞（さい、さえ）の神といい、やがて生まれた赤沢観音堂は、海から拾い上げた十一面観音を祀るようになる。村は横所川の関所と赤沢観音で東西の境界をもった。

芥川龍之介は「トロロコ」の中で、よ者である主人公の子供がこの道を通過するのを、あれほど暗く不安にせつなく描いて見た。あの不安は、塞の神を無視して通過したからか、それとも遠い祖先への畏敬と恐れとせいのなか。

世界は定住民の国家として急速に成長し、ありとあらゆる境界線がはりめぐらされた。そこで漂泊民は姿を消さざるを得ない。しかし陸の漂泊、海の漂泊のはてに江之浦に住み付いた人々は、失ったものへのあこがれと畏敬をもて長く漂泊民を見守り続けたいことだろう。

私にとって江之浦は、多様な日本史に分け入る海の道、陸の道の入り口であり、想像力の海にこぎ出す入り江でもある。

フォトジャーナリスト 広河隆一

中国天津市生まれ。早稲田大学卒業後、中東諸国を中心に海外取材を重ねる。IQJ国際報道写真大賞ほか多数受賞。
単行本・写真集・グラビア・テレビなどで活躍中。



江之浦。多様な日本史に分け入る海の道・陸の道の入り口。想像力の海にこぎ出す入り江でもある。